

LifeKeeper for Windows v8.9.0 アップグレード手引き

本資料は LifeKeeper for Windows v7.x、または v8.x から LifeKeeper for Windows v8.9.0 へのアップグレードの手引きとなります。

注意：

LifeKeeper for Windows v8.0.1 からは Windows Server 2008 R2 以降の 64bit 環境のみをサポートします。サポート OS の一覧・詳細につきましては、リリースノートの内容をご確認ください。

共有ボリュームリソースとして DataKeeper for Windows を使用している場合、DataKeeper のアップグレードも必要となります。そのため、本手順では DataKeeper のアップグレードを考慮した手順となっています。DataKeeper をご利用でないお客様は以後の手順で DataKeeper に関する記述を除外してご利用ください。

また、DataKeeper for Windows v7.x 未満からのアップグレードを実施する場合には、一度両ノードの DataKeeper と LifeKeeper をアンインストールしてから、新規にインストールする必要があります。新規インストールに関する情報は、DataKeeper for Windows v8.9.0 の各種関連マニュアルを確認してください。

製品に関する各種情報につきましては、弊社ユーザーポータルやオンラインドキュメントなどをご確認ください。

LifeKeeper ユーザーポータル

<https://lkduserportal.sios.jp/hc/ja>

オンラインドキュメント

<http://jpdocs.us.sios.com/>

本手順は上記ドキュメントサイトのマニュアルをもとに作成しておりますので、必要に応じて、上記ドキュメントサイトのマニュアルも合わせてご参照ください。また、アップグレード手順において不明点がある場合や、途中何らかの問題が生じた場合にはご契約の LifeKeeper お問い合わせ窓口にお問い合わせください。

アップグレード手順

- (1) アップグレード対象のサーバーにログインし、LifeKeeper のリソースステータスやサービスの状態が正常であることを確認してください。

スタンバイノードはすべてのリソースステータスがスタンバイ状態であることを確認してください。

- (2) アップグレード作業を行うノードのリソースステータスがすべて「スタンバイ」であることを確認してください。

アクティブステータスのリソースがある場合には、LifeKeeper GUI を使用してリソースを他方のノードへスイッチオーバーしてください。

- (3) 全クラスターノードの LifeKeeper GUI や DataKeeper GUI を閉じてください。

- (4) スタンバイノードの Language supplement をアンインストールします。

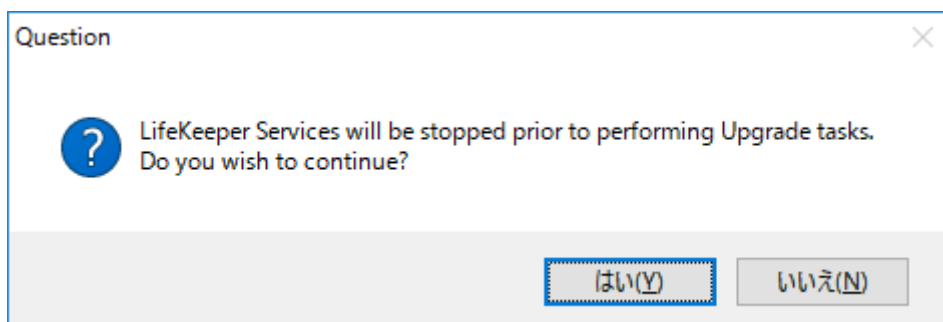
アンインストールは OS のプログラムの追加と削除を使用してください。

- (5) スタンバイノードの LifeKeeper サービスと DataKeeper サービスを停止します。

LifeKeeper と DataKeeper のサービス停止は、OS の services.msc、SC コマンド、Net コマンドなど任意の方法で停止してください。LifeKeeper サービスについては c:\%k%\bin\%k%stop コマンドも使用できます。

- (6) スタンバイノードで LifeKeeper for Windows v8.9.0 のインストーラーを実行し、アップグレードを行います。

あらかじめ LifeKeeper サービスが停止されていなかった場合には、最初に対象サービスを停止する旨のメッセージが表示されます。



[はい] を押し LifeKeeper サービスを停止させてください。その後、LifeKeeper for

Windows のアップグレードウィザード画面が開きますので、[Next]ボタンを押してください。押すとアップグレードの処理が実行されます。

アップグレードの処理完了後、License Key Manager が自動起動します。パーマネントライセンスが適用されている場合ライセンスの更新等はありませんので、そのまま[終了]ボタンを押して画面を閉じてください。

閉じた後 OS を再起動するかどうかの確認画面が表示されますが、「No」を選択して LifeKeeper for Windows v8.9.0 のインストーラーを終了させて次の手順に進んでください。（本手順では再起動の回数を少なくするため、再起動をしない手順としていますが、仮に再起動したとして問題にはなりません。再起動後に次の手順を実施してください。）

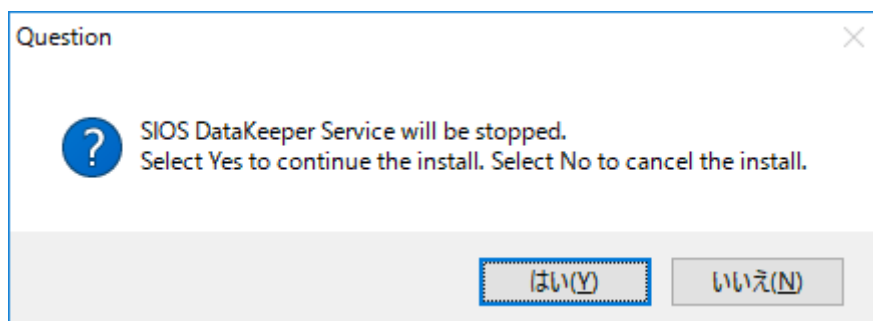
(7) ARK をご利用の場合は ARK のインストーラーを実行し、ウィザードに従いアップグレード行ってください。

アップグレード完了後次の手順に進んでください。

※DataKeeper をご利用でない場合には、この時点で OS を再起動して手順 (9) に進んでください。

(8) DataKeeper を使用したボリュームリソースを使用している場合、スタンバイノードで DataKeeper for Windows v8.9.0 のインストーラーを実行して、アップグレードを実行します。

インストーラーを実行したときあらかじめ DataKeeper サービスが停止されていない場合、最初に対象サービスを停止する旨のメッセージが表示されます。

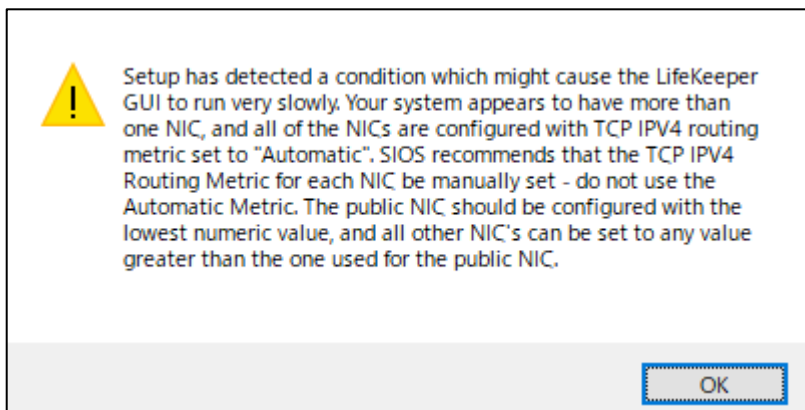


[はい]ボタンをおして DataKeeper サービスを停止させてください。その後、LifeKeeper for Windows のアップグレードウィザードが開始されますので、ウィザ

ードに従って操作してください。

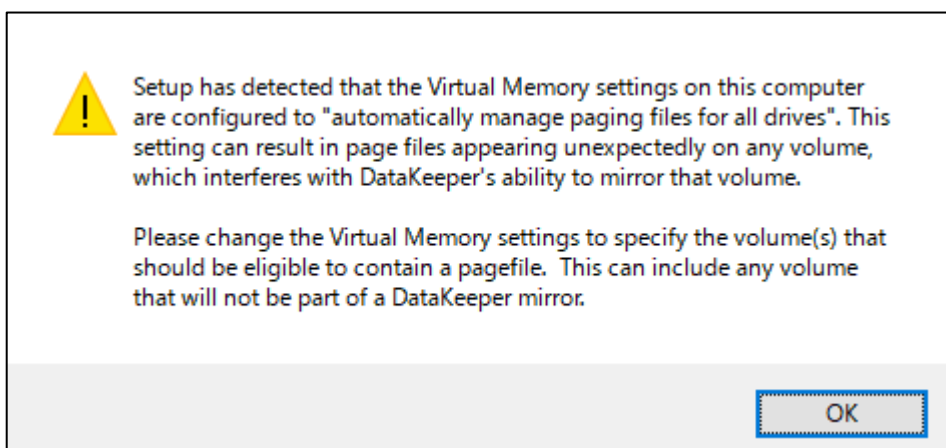
アップグレードウィザードを操作する中で環境の状態に応じいくつかのメッセージが表示されます。それらの内容は次の通りです。

- LifeKeeper GUI の表示遅延への影響に関する警告



この画面では、使用している OS の NIC の設定上 LifeKeeper GUI の表示が非常に遅くなる可能性があることを示唆しています。詳細につきましては、LifeKeeper for Windows オンラインドキュメントのテクニカルドキュメンテーションにございます、トラブルシューティング「GUI ネットワーク関連 - Windows プラットフォームにおける長期の接続遅延」の内容をご確認ください。アップグレード後 LifeKeeper GUI を起動したとき、画面表示やステータス更新が非常に遅い場合には、本メッセージ内容およびトラブルシューティングの内容を参照の上ご対応ください。

- 仮想メモリー設定に関する警告

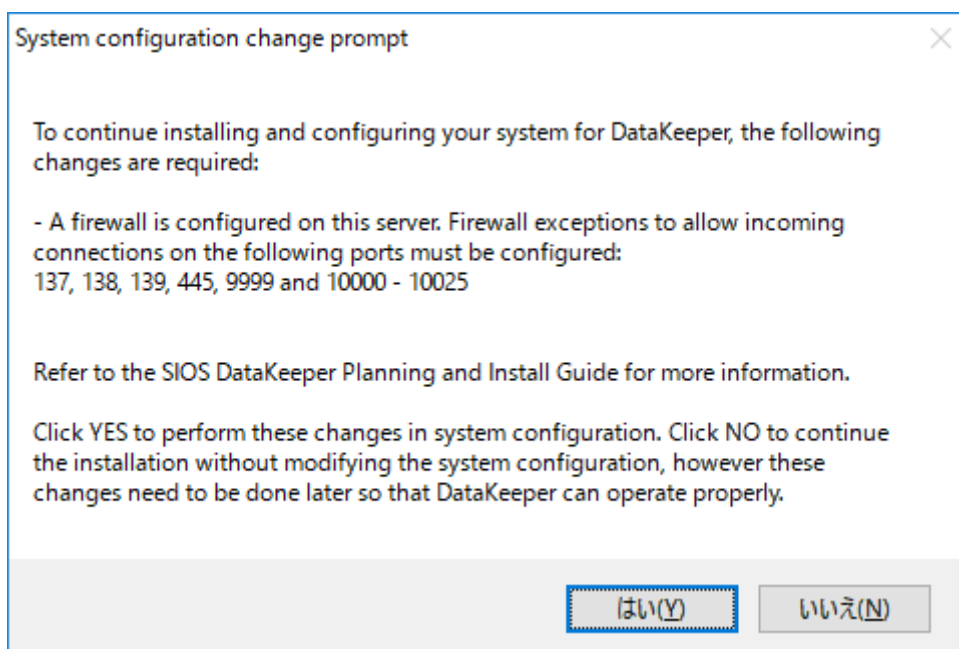


この画面では、OS の仮想メモリー設定が有効であることを警告しています。この設定が有効である場合、ミラーリング対象ボリュームに対してページファイルが自動生成

されることがあり、ミラーリングに支障が生じる場合があります。そのため、設定を無効にする必要があります。無効にする設定については、DataKeeper Cluster Edition v8.9.0 テクニカルドキュメンテーション「すべてのドライブのページングファイルサイズを自動で管理する」を無効にする」のページをご確認ください。この画面は設定の変更を生じさせるものではありません。そのまま[OK]ボタンを押して画面を閉じてください。その後、仮想メモリー設定に関する設定をご確認ください。

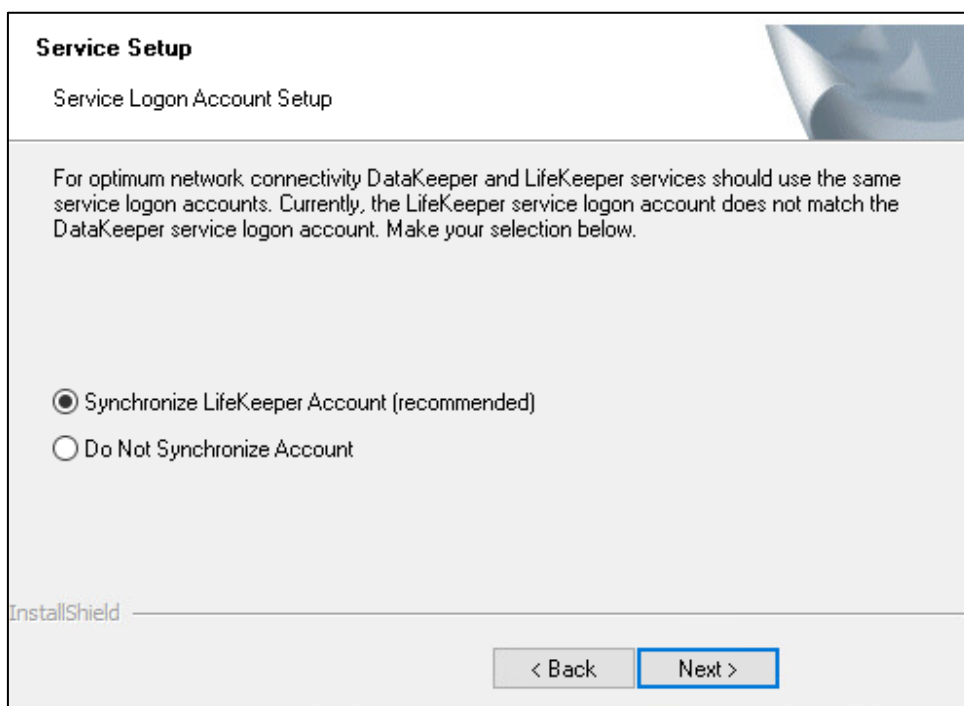
- ファイアウォールの受信の規則に関する通知

ファイアウォールが有効である場合、受信の規則を作成することを通知するウィンドウが開きます。これはあらかじめ必要なルールが設定されていても開きますので、「はい」ボタンを押してください。



- DataKeeper のサービスアカウントの設定ウィザード

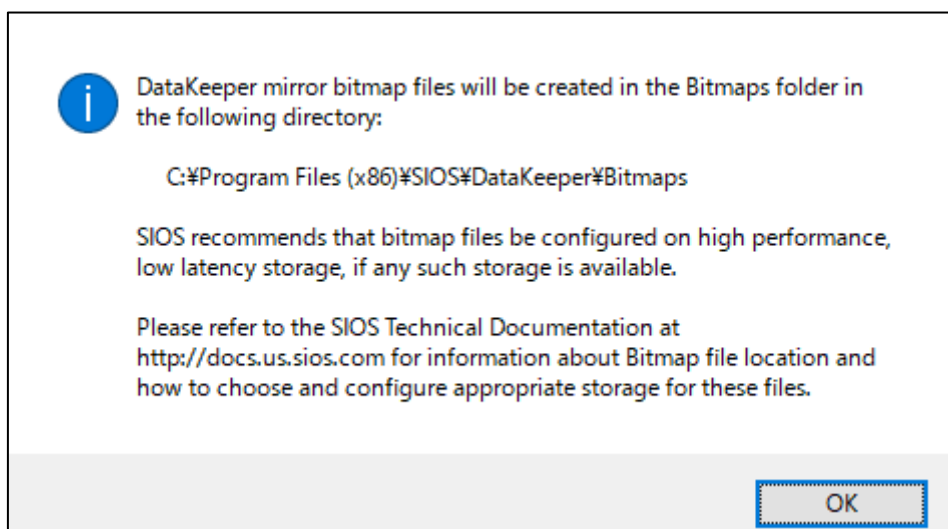
アップグレード元のバージョンによっては途中サービスアカウントを指定するウィザードが起動します。起動された場合には、環境に合わせて適切に設定を行ってください。



DataKeeper を利用する上でのアカウントに関する情報は、DataKeeper for Windows テクニカルドキュメンテーションの「DataKeeper サービスログオン ID とパスワードの選択」ページをご確認ください。DataKeeper のアップグレードが完了したらライセンスマネージャが起動しますが、アップグレードの場合ライセンス更新等の必要は通常ありませんのでそのまま閉じてください。

- インテントログの保存場所に関する注意

アップグレード処理が完了すると次のような画面がポップアップで開きます。



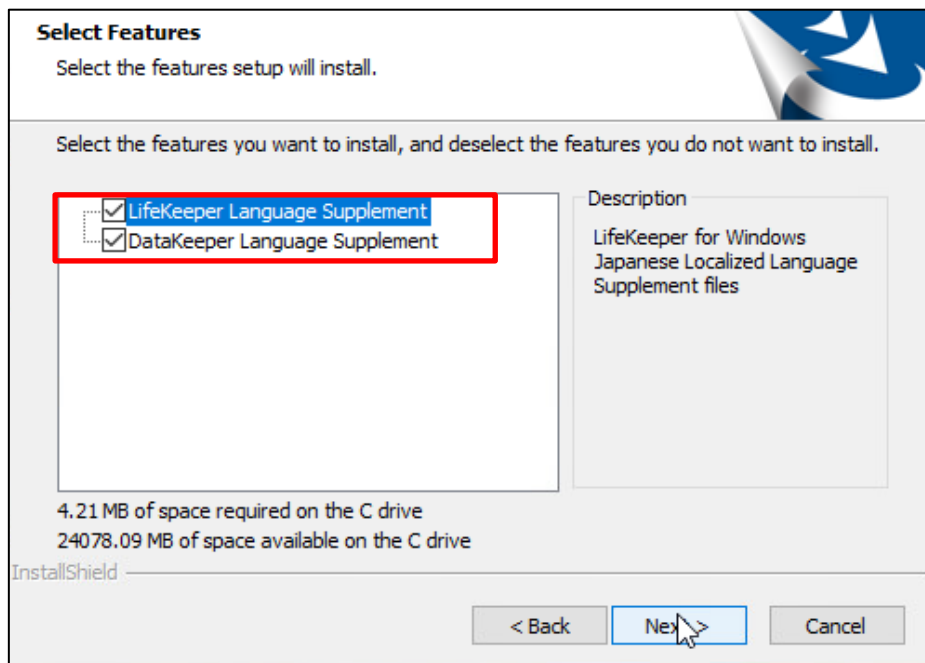
この画面では、DataKeeper のビットマップファイルの作成場所に関する推奨事項を記載しています。このメッセージによって設定の変更等を生じさせるものではありません。そのまま[OK]ボタンを押して画面を閉じてください。このポップアップメッセージの内容に関する詳細については DataKeeper テクニカルドキュメント「SIOS DataKeeper インテントログ」のページを参照してください。

インテントログに関する画面を閉じると自動的に License Key Manager が起動します。アップグレードの場合、通常ライセンスキーを新たに登録するなどの操作は必要ありませんのでそのまま[終了]ボタンを押して画面を閉じてください。

License Key Manager の画面を閉じるとインストールウィザードの完了画面が開きます。この画面では OS を再起動するかどうかを選択することができます。ここでは再起動を実施する Yes を選択して[Finish]ボタンを押して OS を再起動してください。OS が再起動から復旧したら次の手順に進んでください。

(9) Language supplement v8.9.0 をインストールします。

インストールウィザードの途中以下のような画面が表示されます。



なお、上記の表示は LifeKeeper と DataKeeper がインストールされている場合の表示です。LifeKeeper のみがインストールされている場合には、上記の画面には「LifeKeeper Language Supplement」だけが表示されます。この画面ではデフォル

トでチェックされた状態のまま[Next]ボタンを押してください。押すとアップグレードの処理が開始されます。処理が完了すると終了画面が表示されますので[Finish]ボタンを押してください。

- (10) DataKeeper を使用している場合は、DataKeeper GUI を起動して、ミラーリングを実行しているサーバーへ接続し、ミラーステータスや、ディスクがロックされていることなど確認してください。また、LifeKeeper GUI を起動して、リソースステータスが正常に表示されていることを確認してください。**

確認の結果何らかの問題が生じている場合には、これ以降の手順を実施せずに製品サポートへお問い合わせください。

- (11) LifeKeeper GUI を使用して全てのリソースをアクティブノードから、アップグレードしたスタンバイノードへスイッチオーバーしてください。**

- (12) 手順(11)の操作でスタンバイノードとしたもう一方のノードで(1)から(10)の手順を実行して、LifeKeeper、DataKeeper のアップグレードを行ってください。**

アップグレードの手順は以上です。アップグレード操作完了後は必要に応じてリソースのスイッチオーバーやサービスの提供状況などについて確認を実施してください。

本資料の内容やその他アップグレードに関して不明点がございました場合には、ご契約の製品サポートお問い合わせ窓口までお問い合わせください。